

# べつかい 議会だより

第115号

2025年11月

たくさんの町民応援に感謝する選手たち

|           |                                   |    |
|-----------|-----------------------------------|----|
| <b>特集</b> | 認定だけには終わらせない！決算審査 .....           | 2  |
|           | ふるさと応援寄附金の使い道 .....               | 4  |
|           | 2つの施設を現地調査 .....                  | 6  |
|           | 介護職員確保対策事業の進捗状況 .....             | 7  |
|           | ふるさと納税駆け込み 50億円増額補正！ .....        | 8  |
|           | 一般質問(田村・中村・伊勢・市川・外山・吉田の6議員) ..... | 9  |
|           | 研修レポート・議会アラカルト .....              | 12 |
| <b>連載</b> | 「Let's go! 議会!」<第3回> .....        | 14 |

シリーズ おじゃましま〜す 地域の未来を切り開くパイロット魂 .....16



北海道別海町議会

「認定」 だけには終わらせない！



# 決算審査 効果 評価 課題

10月8日から2日間の日程で、各委員から多くの質疑が行われ、令和6年度の収入財源や事業効果について検証しました。

一般会計、4つの特別会計、3つの企業会計合わせて8会計465億3563万円の審査をしました。

一般会計の収入額は、373億9096万円で、ふるさと応援寄附金の増加により、前年度より39億3512万円増額となっています。一方、支出額は369億4632万円で、翌年度へ繰り越す財源を差し引き、2億1754万円の黒字決算となりました。

別海パイロットスピリッツ  
運営支援事業

**質疑** 補助金の事業内容と  
対象経費の内訳は？

**答弁** 町外の事業者から、  
企業版ふるさと納税に

より別海パイロットスピリッツの運営に充ててほしいと申し出があった寄付を財源に、チームの運営を支援した。

内訳は、北海道フロンティアリーグの加盟費用や、ユニフォーム制作費などのチーム発足に係る活動の支援に147万2000円。

選手獲得に係る活動の支援に191万2000円、宣伝広告に係る支援に43万1000円が活用された。



シティプロモーション・  
ブランディング推進事業

**質疑** 何店舗にどのような内容で業務委託し、効果をどう捉えているのか。

**答弁** 5社を通じて全国94  
店舗で実施した。

ホタテ・ホッキ・牛肉・乳製品を活用し、各飲食店で開発したメニューに、PRを添えて提供した。

別海町および特産品に関するSNSの投稿数が大幅に増え、事業効果が高まっていると判断している。

ふるさと納税のリアルイベントで、出展する自治体の中でも群を抜いてファンが行列となることから、別海町と特産品の認知

度は大きく向上していると分析している。



在宅福祉サービス事業

**質疑** 配食サービス、外出支援サービスの実績は。

**答弁** 配食サービスの実施  
食数は8797食。

【別海町社会福祉協議会】

・延食数 4817食

・業務委託料

433万5300円

【道東あさひ農業協同組合】

・延食数 3980食

・業務委託料

358万2000円

外出支援サービスは、実施回数が264回で実績額が145万2000円。



## ふるさと交流館整備事業

**質疑** 温泉掘削の工事実績と進捗状況は。

**答弁** 発注業者が決定後、北海道へ温泉掘削の許可申請を行い、令和7年3月に許可され、工事を開始している。

令和7年9月12日時点で、

深度800mに達し、検層を実施。9月末に掘削を完了した。

取水のための管路を形成し、工事全体の完了は10月末を予定している。



## 院内総合情報システム整備事業

**質疑** 町立別海病院電子処方箋システム導入予算の減額要因は。

**答弁** 院内総合情報システムの更新を令和8年度に行う。

そのシステム更新に合わせた導入が、コスト面で有利なこと。

現時点で全国的に当該システムのトラブルが散見していることから、早急な導入は得策ではないと判断し、電子処方箋システムの導入を取りやめた。

なお、全国の病院における

電子処方箋の普及率は14・5%に留まっている。



## 議会からの意見 ー総括質疑の要約ー

### 指摘事項

①町立別海病院の経営改善については、町からの繰入金が約11億6000万円と多額になっている。

医療人材不足が深刻な状況にあることは承知しているが、病院経営強化プラン策定直後に、医師の退職があったことなどからプランの改定を検討されたい。

②適切な事務処理については、一部で執行残など、不用額の補正予算による減額要求漏れや、活用可能な補助事業の未活用が見受けられた。

再発防止に向け、確認体制を強化する内部統制を徹底されたい。

### 創意工夫事項

①ふるさと応援寄附金については、関連する一連の流れを入口から出口まで公開する必要がある。

より一層の「見える化」を図られたい。

②地域おこし協力隊関連事業については、行政のどの分野で、何名の隊員がどのような活躍をしているのか示す必要がある。

隊員の任期満了後の本町での起業や定住につながるような施策に期待する。

### 予算決算審査特別委員会

委員長 横田 保江・副委員長 伊勢 徹

みんなが知りたい!!

令和6年度

# ふるさと応援寄附金の使い道

令和6年度寄付金の状況と、私たちの暮らしにどう使われたのかを抜粋して紹介します。

ふるさと応援  
寄附金

173億4000万円

返礼品・発送費  
広告料など

101億7300万円

各々の  
事業へ

25億1100万円

この金額がいろいろな  
事業に使われました。

※各事業費は金額横の割合で  
ふるさと応援寄附金が利用されています

## 水道料減免分繰出事業

1億658万円 (99.9%)

一般企業と農業者の水道料を支援しました。  
(令和6年11月～令和7年1月分)



## シティプロモーション・ ブランディング事業

5998万円 (99.9%)

全国の連携協定飲食チェーン店の協力により  
特産品の市場シェアの拡大を図りました。



## 秋サケ漁業持続化支援事業

**9041万円** (99.9%)

秋サケ資源増大などの対策に対する助成を別海漁協・野付漁協に支援しました。



## 小・中学校校舎等整備事業

**3億2567万円** (99.9%)

各小・中学校にエアコンを設置しました。



## 地域医療体制維持確保 特別対策事業

**2億6000万円** (100%)

町立別海病院の運営費を負担しています。  
(看護師および医療技術職員の給与負担)

ふるさと応援寄附金は、全額事業などに使うことはできません。

返礼品・発送費・広告料などにかかった経費の残りが、各種事業に活用されます。

これまでの寄付金の残額107億4300万円は、基金に積み立てられています。

今後、全国の別海町ファンの方々に喜ばれるよう、計画的な有効活用が望まれます。

## 福祉牛乳給付事業

**6506万円** (53.8%)

70歳以上の高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児などに、1人当たり1週間に5個支給しました。



基金とは…特定の目的のために積み立てておきます。家計で言うと、「貯金」に当たります。

# 総務産業常任委員会の活動報告

委員長 今西 和雄 副委員長 宮越 正人 委員 佐藤 初雄・戸田 憲悦・松原 政勝・小椋 哲也・高橋眞結美・市川 聖母

## 2つの施設を現地調査

### 今後町は どのように関わるべきか

#### 酪農工場

別海町酪農工場は、町産生乳を原料に牛乳・乳製品の製造販売を行い、「株式会社べっかい乳業興社」が指定管理者として運営しています。

施設は老朽化が進んでおり、令和3年から計画的な改修が行われています。

令和7年度には、貫流ボイラーやアイスクリームフリーザーの更新、排水処理施設改修工事などが実施されます。

酪農工場の役割は、地元産牛乳を町民に提供するとともに、「別海ブランド」を普及・促進させることです。

しかし、ブランド普及には課題があり、施設の規模から全国的な浸透は困難、また、設備投資が大きく、新製品の開発が進みにくい状況です。



#### 酪農研修牧場

別海町酪農研修牧場は、新規就農者・後継者の育成を目的としています。

平成8年に設置され、これまで87組が修了し、新規就農しています。

現在は4組8名が研修中です。

「入口から出口まで」一貫したサポート体制が当研修牧場の強みであり、新規就農した数も全国的に多い実績があります。

新規就農の経営方針に合わせ、令和5年にフリーストール型の第2牧場を閉鎖しています。

令和7年3月、つなぎ牛舎のみに規模を縮小する改修が完了しています。

酪農希望者は減少傾向にあり、町や農協が連携して年10回のPR活動を行い、今年度100人以上の方々で面談しました。

しかし、研修生の確保は依然として難航しています。

また、施設の老朽化と指導員不足も課題です。



つなぎ牛舎での搾乳の様子

## ギカイの目

#### 酪農工場

工場の役割である「福祉牛乳」の提供は、意外と町民に知られていません。

「町民が別海の牛乳を飲めるように」という目的をしっかりと周知する必要があります。

今後、施設の老朽化により大規模な改修も必要になってきます。

財政状況を考慮し、どこまで負担できるか、施設規模も含めて検討が必要です。

#### 酪農研修牧場

指導員不足と研修生の減少は喫緊の課題であり、農協と構成する運営委員会をしっかりと機能させ、綿密な協議の積み重ねが大事です。

運営・経営に関しては、今後も農協と連携し、本来の目的と今後のビジョンの共有が重要となってきます。

# 福祉文教常任委員会の活動報告

委員長 外山 浩司 副委員長 横田 保江 委員 中村 忠士・田村 秀男・貞宗 拓雄・伊勢 徹・吉田 和行

## 介護職員確保対策事業の 進捗状況

### 2025年問題は クリアできたのか

町では介護職員の不足に対応するため、介護職員確保対策事業を進めています。

各事業所において、国で定められている人員基準は満たしていますが、夜勤を伴う事業所で人材確保が難しい現状や、補助制度の活用状況が報告されました。

介護職員確保に向けて、町では介護福祉士の資格を目指す学生への奨学金（月額6万円）をはじめ、介護従事者就業支援補助として、新規就労者や復職者への補助を行なっています。

他にも、介護職員初任者研修費や、資格取得受験料および旅費の補助なども実施しています。

今後も、就職説明会への参加費補助や、求人広告などの取り組みを通じて、町内全ての介護事業所を対象に、人材確保の支援や、安心して介護を受けられる体制づくりを進めていきます。



## 存続できるか 別海高等学校寄宿施設

### どうなる、今後の寄宿施設

今回の委員会調査で、寄宿施設の運営状況を調査しました。

平成30年度から平成9年度までの10年間、収支計画などの施設運営内容を協定書に明記して設置者と提携しています。

昨今の物価・人件費の高騰、食事提供を外部委託したことによる影響で、設置者から入居者に対する補助金の増額協議がありました。

利用生徒がいる限り、寄宿施設は必要との考えから、月当たり6万円から7万円に9月補正予算で増額されました。

協定期間が終了する令和9年度以降も継続できるのか、改修により現在の施設は継続できるのか、設置者の意向も含め、調査・議論していく必要があります。



## ギカイの目

### 介護職員確保対策事業

各事業所の要望を聞きながら、町ができる支援策をしっかりと講じていることが分かりました。

それでもなお、難しい専門人材の確保については、知恵を出し合っていく必要があると考えます。

### 寄宿施設の今後について

委員会において、町民に説明できる根拠や、資料が不足している点や、繰り返し問題視されました。

今後の協定、施設の改修などについても、課題解決に向けて議論を深めていきます。

今回の調査を通じて、高校生が安心して学校に通える体制を整えるため、透明性と確実な計画性の必要が、改めて確認されました。

# ふるさと納税駆け込み

## 50億円増額補正！

国の制度改正により、10月1日から全てのサイトのポイント付与が廃止になるため、9月30日までの駆け込み寄付を見込み、50億円の増額補正を議決しました。

全体の増加額は54億8630万円で、これにより一般会計の歳入歳出予算の総額は、369億3270万円となりました。

また、小・中学校児童生徒用タブレット端末1216台、別海町酪農場アイススクリームフリーザー1台の財産取得を議決しました。追加した予算から主な事業を抜粋して紹介します。

50億円

ふるさと応援寄附金  
関連経費

ふるさと納税の推進および



3460万円

地域貢献中小企業支援  
事業

町内の建設業者と契約し、省エネ基準の断熱性能に合う部材を使用した住宅の新築、増改築または改修工事の補助。

2億8875万円

移住者用住宅確保対策  
事業

「既存空き家の活用」単身者向けシェアハウス改修支援2475万円。

「アパート新築の促進」低迷している新築アパート、居室不足への支援2億6400万円。どちらも町民の入居可能。



740万円

福祉灯油助成事業

福祉灯油・暖房用燃料費などの助成ほか。

200万円

町営野球場整備事業

観客席防球ネット設置工事。



163万6000円

健診機器等購入事業

体成分分析装置の購入。栄養状態や体のバランスをデータで見える化し、利用者の肥満予防、自己管理に役立てる。



詳細はこちらからご覧になれます

## 議員6人による一般質問

### 質問

いつデザインされるのか！  
我が町の未来予想図は



たむらひでお  
田村秀男議員

てが総合計画の原案に明示されるよう取り組む考え。

ただいま、50年先を見据えた切り札となるグランドデザインをと、議員から力強い言葉を送りたい。

単に絵を描くだけでは不十分であると常々議員がおっしゃるように、私たちもそう考えている。

別海町を訪れる方々が、ため息をつくような美しい景観、これを守り抜く崇高な理念が欠かれない。

このような決意のもと、財政の健全化と、地域再生を同時に進める長期的な展望を持って、100年の大計が感じられるようなグランドデザインが、次期8次の総合計画で描かれるよう進めていく。  
引き続き忌憚のないご意見やご提案を賜りたい。

**質問** 限られた財源と人材の下で、人口減少、人材確保、自然災害対策、物価高騰や外国人への対応など、多種・多様化する住民ニーズに的確に応えるための「50年先を見据えた切り札」を見える化する「グランドデザイン」は、いつまでに描くのか。

**答弁** 今年度から第8次別海町総合計画の策定に着手をし、町のグランドデザインの構想、市街地活性化および地域活性化拠点の再生を進める。市街地単位、拠点単位、そして町全体といった対象エリアごとに草案を作成し、意見聴取の作業を進め、これら全

### 質問

20年間で酪農戸数  
311戸減、対策は



なかむらただし  
中村忠士議員

のための補助金の拡充を行った。小規模で始められるというニーズには応えていきたい。施設補修の補助について提案はよくわかるが難しい。農業振興の重要性は認識している。継続して検討していく。

計根別着陸場(西春別駅前)の安全を担保するため航空法の準拠を強く求めるべき

**質問** 20年間で離農403戸、新規就農72戸、差し引き331戸減少した。今年5月の戸数は536戸。このままでは20年後200戸を切るかもしれない。深刻だ。  
強い危機感を持って行政執行に当たるべきと思うが。

**答弁** 非常に深刻な状況だ。

基盤整備、新規就農者の確保をしっかりとやっていく。

**質問** 初期投資が重くなく、30頭程度の小規模から新規就農できる仕組みや、牛舎など施設の補修に補助を出す制度を作ることではないか。

**答弁** 初期投資負担軽減

**答弁** 米軍機の運用が航空法に準拠し実施されることは、住民の安全安心にとって重要な課題だと認識している。

しかし、米軍機の運用に関しては、日米地位協定により一部規定が適用除外となっている現状がある。

地位協定についてはいろいろ矛盾があると思っている。航空法に沿った訓練にしてほしいとしっかり伝えていく。



## 議員6人による一般質問

### 質問 外国人労働者の今後の重要性和行政の関わり方について



伊勢 徹 議員

**質問** 直近の町内の人口と外国人労働者の国別の人数は。

**答弁** 8月末の町内人口は1万3822名。

ベトナム259名、インドネシア162名、フィリピン147名、ミャンマー18名、中国11名、韓国8名、ネパール7名、アメリカ5名、タイ3名、カナダ2名、朝鮮・南アフリカ・インド・フランス・メキシコ各1名の627名が町内外国人人数で、その内80%が外国人労働者。

**質問** 外国人住民へ暮らしについてのアンケートの中で、公共交通機関の充実や商

業施設の不足を指摘する意見が多いが、町側の対策は。

**答弁** 公共交通機関の持続可能なサービスの提供に努めていく。

町内企業の経営持続化や発展、新規開業や新業態の事業者の支援を、今後も継続する。

**質問** 日本語教室やイベントの開催などの要望が多いが、町側の対策は。

**答弁** 商工会や商工関係団体などと情報共有し、どのような支援ができるのか考えていきたい。

**質問** モスクの建設について。

**答弁** 特定の宗教に対する公的支援は、難しい。

**質問** 育成就労制度へ移行されると、諸問題が出ると思われるが、町の見解は。

**答弁** 現時点、具体的な対策は検討していない。

### 質問 学びを止めない不登校支援を問う



市川 聖母 議員

**質問** 不登校支援としてのオンライン学習を出席扱いとする制度の導入をどう進めるか。

**答弁** 学習機会確保に有効と認識している。保護者との連携や対面指導など国の要件を満たす必要がある。

「教育支援センターふれあいーむ」利用は、出席扱いとしているが、現時点ではオンライン学習の試行導入予定はない。

**質問** 1人1台の端末が配備されているが、教員の活用には差がある。研修や支援体制はどうか。

**答弁** 道内のICT先進校の視察研修を予定している。

そこで得た知見や実践例を各学校で共有し、教員が効果的にICTを活用できる環境づくりを整え、児童生徒の学習効果の向上を図りたい。

**質問** 西春別地区でのふれあいーむ※開設日の増設は。

**答弁** 自立支援の場として週一回の開設が続いている。

日数不足の要望は届いていないが、今後も利用者や家庭の声を丁寧に聴き、必要に応じて整備する。

**質問** 不登校の背景に学校要因がある場合、どのように対応するか。

**答弁** 一律指導を見直し、個別最適や協働的な学びを充実させる。行事の選択制なども取り入れ、魅力ある学校づくりを進めている。

学校も、これまで当たり前としてきたことを、見直す時期にきている。

※ふれあいーむ…本校から離れた場所に設けられた教室（分校）



詳細はこちらからご覧になれます

## 議員6人による一般質問

### 質問

「すこやか」を  
より快適な環境に！



とやまこうじ  
外山浩司議員

**質問** この夏の猛暑により、老人保健施設「すこやか」の入所者の中で、体調不良になった方はいなかったか。

**答弁** 2名が軽い脱水状態になり、投薬や点滴により数日で回復した。

**質問** 入浴時の脱衣場は、職員も大変だったようだ。体調を崩した職員はいなかったのか。

**答弁** 幸いにも体調不良の職員は、確認していない。

**質問** 「すこやか」は、定員が50名で15部屋ある老人保健施設。エアコン設置などで、今後の暑熱対策は。

**答弁** 暑い日が長く続き、療養室の温度管理が難しいことが確認できた。

今後とも医療職、介護職が一体となって利用者の体調管理に努めていく。

より健康を損なわない環境を提供するため、空調機器の増設の準備を進めている。

### 涼しい体育館で授業を

**質問** 学校施設で、利用頻度の高い体育館の暑熱対策は。

**答弁** 現状では、カーテンによる遮光、サーキュレーターなどの空気の循環など簡易的な対応にとどまっている。

エアコンの設置なども考えられるが、現時点での予定はない。猛暑日などにおいては、エアコンが設置されている普通教室を活用して、授業の振り替えを行うなど工夫して対応している。

### 質問

行政から町民へ  
対話の場を一つでも多く



よし だ かすゆき  
吉田和行議員

**質問** 町公式LINEの運用開始前後の、町民の反応に変化はあったか。

**答弁** 令和5年8月からリニューアルし、分かりやすい情報発信や、アンケート調査を実施している。

反応を直接把握するのは難しいが、登録者数は令和5年度1785人、6年度3456人、7年度8月末時点で3938人と順調に増加している。

**質問** 協働のまちづくりを進めるには、財政状況を踏まえた行政報告会や、町民懇談会など対話の場が必要だと思ふが。

**答弁** 現時点で報告会や懇談会の開催は考えていない。

財政資料の作成、「データで考える別海町」の情報充実、総合計画や拠点再生構想づくりを通じて、同様な対話の場を確保する準備を進めている。

**質問** 行政側から町民への対話の場を、もっと増やすことはできないか。

**答弁** 個別の対話の場を設けたこともあるが、参加者が少なく継続していない。

現在は、団体や町内会からの要請に応じて対話を行っている。

**質問** 施策が数多く進められている中で、説明する場を増やした方が、うまく進むのではないか。

**答弁** 行政の説明は議員にしっかりと伝えている。

議員は町民の代表なので、議員が地域の声を拾って行政に提言してほしい。

## さらに読まれる議会だよりへ

### 広報小委員会

8月18日から3日間の研修漬けで、新しい知識を委員8名が切磋琢磨する。

読まれ、伝わる議会だより  
の研修会では、議会サポ  
ーター芳野政明氏から広報の役  
割や編成方針、レイアウトの  
要素などを享受されました。  
11月発行の「議会だより」へ  
つかい」から実践します。



議会サポーター芳野氏の講義

人口減少社会のまちづくり  
の研修会では、(株)K-TAB  
Aの酒本浩社長から、地域コ

コミュニティの重要性やアク  
ティブシニアの参画、公共空  
間の活用方法などを伝授され  
ました。今後の政策議会に反  
映します。



まちづくりのエキスパート酒本社長の講義

(株)ピーアールセンターの高  
橋佑介研修講師から、議会広報  
の「見せ方」「読ませ方」「伝え  
方」を指導していただきました。  
11月発行の「議会だより」べつ  
「かい」から取り入れます。



広告会社の視点を生かした高橋講師の講義

### 研修会のまとめ

議会広報は、「情報を伝える  
だけの紙」ではなく、町民  
の皆さまと議会をつなぐ架け  
橋です。

本研修会で学んだ視点を大  
切に、一人でも多く町民の皆  
さまの心に届く「紙面づくり」  
や「まちづくり」に挑戦して  
いきます。

## 自治功労者表彰

戸田憲悦副議長が、多年に  
わたり議会議員として、議会  
制度の高揚と地域の振興およ  
び住民福祉の向上、地方自治  
の発展に寄与されました。

その功績が認められ、北海  
道町村議会議長会の自治功労  
者として、25年以上の在職で  
表彰されました。



# 私たちが見た・感じた 別海町議会 !!

議会モニターの皆さんに、一般質問を傍聴してのご意見をお聞きました。

## 令和7年 第2回定例会



一般質問の内容は、できるだけ多くの町民の利益に直結するものがないなと思いました。当事者の立場に立って、答弁してくれると親近感が湧きます。(S氏)



今どうするとかではなく、未来を担ったこと、また子どもたちのこと、リンクのこと、道の駅のこと、猫のこと、興味深く身近に感じる質問がされていたので、興味深く拝聴しました。(Y氏)



生で見て、議会の臨場感が伝わりました。議員や町職員が別海町をより良くしたいのが、ぼやっとですが伝わりました。(O氏)



質問の背景や、今後の展望が見えるような質問の仕方をされていたので、リアルに想像しながら聞いていました。

良かったのが、しっかりと地域の人声を拾い、町への見解を質問していたことです。こんな風に地域の声が、議員さんを通して大きな声の一つになって、町を動かして行くのかなと感じました。(N氏)



議会は個別の案件の可否だけでなく、今後のまちづくりについて、町側と議員とでいろいろな意見を交換する場であっても、よいのではないかと思います。(F氏)

## 令和7年 第3回定例会



踏み込んだ答弁で、環境を良くしていこうという熱意が感じられた。次もまた聴きたい。(S氏)

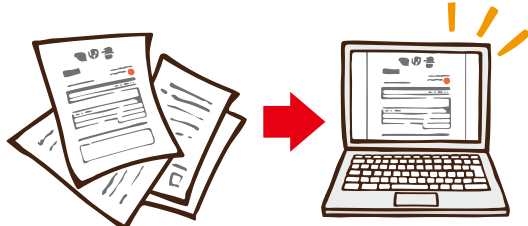


議員一人一人が、真剣に町民の声を行政の場で伝えてくれているんだと、感銘を受けました。(Y氏)

## ペーパーレス化に取り組んでいます

令和2年から別海町議会は、議会運営の効率化を目的として、タブレットを導入しています。

会議資料のペーパーレス化や迅速な資料の提供、さらに常任委員会の調査の強化、議事運営上の連絡がスムーズに行えるなどペーパーレス化が進んでいます。



## 議会研修会 「災害情報プラスGIS活用」を学ぶ

別海町役場庁舎



講師 国立大学法人 電気通信大学大学院  
山本 佳世子 教授

山本教授を講師として招き、防災対策における災害情報、地震情報システム、拡張現実などの活用や能登半島地震における現地調査の結果などについての研修を受けました。

別海町議会における政策形成と議会機能の強化を図るとともに、別海町議会業務継続計画を推進する上で、大変参考になりました。

※GIS…「地図上で情報を扱う」仕組み  
GPS…「今どこにいるか」を計る道具



# Let's go! レッツゴー! 議会!

今回のテーマは、ずばり「二元代表制」  
実は、日本の地方自治は「二元代表制」という仕組みで動いています。  
分かりづらいと感じられることも多い! その仕組みを紹介します。

Q

二元代表制って何?

A

町長と議会、二つの代表を町民が直接選ぶ仕組みです。

町長は行政の代表として町の運営を行い、議会は町民の代表として条例や予算を決め、町長の仕事をチェックします。互いに独立した立場で協力と緊張関係を保ちながら、町民の暮らしをより良くするために働いています。

## だから選挙がとっても大事!

町民

選挙で選ぶ

選挙で選ぶ

町長

町民の声を聞く

町民の声を聞く

議会

予算や条例などを提案

予算や条例などを審議・議決

Let's go! 懇談会!

## 地域めぐり懇談会! 11月27日(木)・12月3日(水)開催!

詳細はチラシ等でお知らせします。

あなたの思いが知りたい! あなたの思い教えてください! あなたの声が別海町を変える!

議会改革を一番近くで見てきた  
期数の多い議員に直接聞いてみました！

教えて！  
先輩！

- Q1 今の議会、ぶっちゃけどう？
- Q2 議員になりたての頃、どんなことが大変だった？
- Q3 今の新人議員の環境、うらやましいと思うことは？

# 議会改革でこう変わった！

改革の成果を  
先輩議員に聞いてみました！

## 7期生 中村議員～町民に寄り添い、徹底した深掘りで課題を追究～

Q1 「さまざまな場面で活発さを感じます。特に若い議員や期数の少ない議員が積極的で頼もしいです。議会全体も『町民に見える議会』を目指して努力してきました。改革はまだ発展途上ですが、みんなで力を合わせて進めたいですね」

Q2 「議案がその日に出され、その場で討論や採決ということもあって驚きました。新人議員で『考える時間をとってほしい』と要望して、少しずつ改善されてきましたね」

Q3 「うらやましいというより、議会改革の成果ですね。今は新人でも自由に発言できるし、公用タブレットで情報をすぐ調べられます。いい環境を生かして頑張りたいです」



なかむらただし  
中村忠士 議員

## 6期生 松原議員～議長経験と幅広い視点で、多彩な課題に挑む～



まつばらまさかつ  
松原政勝 議員

Q1 「全員が参加している議会だと思います。これからもっと発言や意見交換が増えれば、さらに活発で魅力ある場になるとと思いますね」

Q2 「自営業から議会に飛び込んだので、行政から出される資料を理解するのに苦労しました」

Q3 「今期の新人議員は責任感が強くて頼もしいです。まもなく議会の中心で活躍するでしょう」

## 3期生 小椋議員～豊富な知識と人柄で、町の課題をわかりやすく～

Q1 「考え方の違いを尊重し合い、率直に意見を出せる雰囲気です。役職に偏らず、全員で話し合いながら物事を決めていますよ」

Q2 「議会や委員会の進め方、一般質問づくりを一から学ぶのが大変でした。兼業との日程調整も難しく、手探りの毎日でしたね」

Q3 「全員で討議し意見交換できる場や、丁寧に調査できる常任委員会の体制、兼業にも配慮した日程調整の方法など、若い世代にも活動のしやすい環境が整っています」



おぐらてつや  
小椋哲也 議員

## 地域の未来を切り開くパイロット魂

日本最東端のプロ野球球団「別海パイロットスピリッツ」を支える地域おこし協力隊の3人にお話を伺いました。

◆地域と世界をつなぐ声  
和田 博司さん



枚方市出身の和田さんはスペインでの勤務を経て、姉妹都市の縁から別海町にご夫婦で移住されました。

地域おこし協力隊の活動の一つとして、外国人選手の通訳やホーム試合のアナウンスを担当されています。

奥様は英語とスペイン語、和田さんは日本語で試合を盛り上げ、町民の温かい応援を実感されたそうです。

普段は地域情報サイト「べっかい・news」の運営や、別海高校と連携して酪農シミュレーションゲームの開発にも取り組まれています。日本語教

師の資格も持ち、外国人住民向けの日本語教室の開設も考えており、地域と世界をつなぐ活動を広げています。

◆地元で再び野球と向き合う

外石 雄大さん



外石さんは小学生の頃から大学まで野球を続け、卒業後は一度野球を離れ、サラリーマンをしていましたが、地元別海で新チームが立ち上がるに聞き、協力隊として参加されました。

現在はマネージャーとして、遠征の手配や試合運営、選手のサポートを行っています。別海はホーム試合での観客が他

球団の数倍に上り、地域との盛り上がり強く感じているそうです。

今後は、幼稚園や小学生を対象にした野球教室を開き、子どもたちが気軽に、野球にふれあえる環境をつくりたいと話していました。選手ではなく支える立場から、野球の魅力を広げたいこうと

◆チームを支える若きトレーナー

松田 恵永さん



札幌でスポーツインストラクターをされていた松田さんは、球団関係者からの誘いを受けて故郷である別海に戻ってきました。

シーズン直前にチームへ加わり、選手一人一人の体調や動きを見ながら、練習メニューを組み立てています。監督やコーチからも信頼され、トレーニング内容を任される場面も多いそうです。

中西別の練習場などを活用し、オフシーズンのトレーニングにも力を入れています。1年目で築いた基盤をもとに、2年目はより高い成果を目指して活動が続けています。

◆3人のまとめの声

町民の皆さんの温かい応援があつてこそ、チームはここまで成長できました。心から感謝申し上げます。

来シーズンも、さらに躍動する別海パイロットスピリッツにご期待ください。

令和7年第4回定例会は  
**12月8日(月)～12月12日(金)**  
を予定しています



別海町議会  
YouTube チャンネル



一般質問の傍聴にきてみませんか？

一般質問日

**12月9日(火)・10日(水)** 予定

お待ちしております!!